

どう防ぐ？ 児童虐待 体罰は必要なのか？

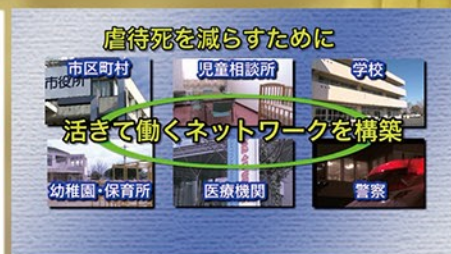
【DVD・約21分】一般向け

文部科学省選定

子ども虐待死を ゼロに!!

4つの事例を検証する

【DVD・約24分】
児童福祉従事者・関係者向け



監修のことは

胸が締め付けられるような痛ましい事件が後を絶ちません。私たちは、力を合わせてこの問題の解決に挑まなければなりません。しかし、実際には、どうしたら良いのでしょうか？

この2本のDVDは、それを見出すためのヒントを提供し、共に考え、日本での取組み、あなたの地域での取組みを前進させるために制作されています。

1本は、「体罰禁止」を定めた児童虐待防止法の改正を踏まえ、体罰の歴史や体罰禁止を定着させたスウェーデンの取組みについて学び、加えて、しつけを目的としながらも深刻な児童虐待にまでエスカレートしてしまった複数の事例を通じて考えます。

もう1本は、誰もが記憶に留めている近年に発生した子どもへの暴行死事件をはじめとして、コロナ禍の下で発生した2つの乳幼児放置死事件、多胎児への虐待死事件、そしてこれも児童虐待となる心中未遂事件を通じて掘り下げます。

児童虐待というと、一部の問題を持った悪質な加害者による特殊な事件と見なされがちです。しかし、その実態は、私たちの社会が抱える課題が、ひとりの子どもとその家族の問題として表出されたに過ぎない場合も多いのです。少なくとも、狂い出した歯車を早い時期に何とかすることができていたら救えたかも知れない、また、私たちにはできることがあるのだということを忘れてはならないのです。



日本社会事業大学
専門職大学院
教授 宮島 清

<参考資料>

- ・最新社会福祉士養成講座3「児童・家庭福祉」中央法規出版（共編著）2021年2月
- ・社会福祉学習双書5「児童・家庭福祉」全国社会福祉協議会 第6章「児童虐待」2021年1月
- ＊2020年度「日本社会事業大学教育職員のサバティカル研修」の適用の一部として監修しました。

児童虐待によって幼い命が奪われる事件が後を絶ちません。そうした事件をなくすために2020年4月から「改正児童虐待防止法」が施行されました。それによって虐待にさらされている児童への社会の取り組みはある程度改善されることになりましたが、法令の周知はまだ十分ではありません。今回の法改正の重要な内容である「体罰の禁止」が徹底されれば、少なくとも体罰による虐待死をなくすことが可能です。

そこで「一般向け」作品では、体罰に焦点を当てて考え、地域全体で虐待死のない社会づくりへのひとつの道を示します。ミニドラマ、イラスト、専門家のコメント等を挿入し、改正児童虐待防止法のポイントを解説します。

また、児童虐待死事件の多くは、周囲の人に気づかれ何らかの形で公的機関の関わりがあった事例です。言い換えれば、当事者からSOSのサインがあったにもかかわらず、救うことが出来なかった事例が数多くあったということです。

そこで「児童福祉従事者・関係者向け」作品では、当事者からのSOSをどのように受け止めたら良いのか、気にかかる事例があったとき、形式的な対応で終わらせずに、子どもと保護者を救うにはどうしたら良いかなどを、実際に起きた4つの事件をもとにミニドラマにしてわかりやすく示します。

一般向け
約21分

文部科学省選定

どう防ぐ？児童虐待 ～体罰は必要なのか～

■体罰はしつけ？

児童虐待をした保護者が、理由を聞かれたときによく答える言葉は、『しつけのため』だ。街頭で体罰についての意見を聞いてみても、意外に多いのが体罰容認の声。その背景には…。

■体罰は昔からあった？

江戸時代の日本では、子育てにおいて体罰はあまり用いなかった。しかし明治時代になり体罰を認める民法ができたこと、また日露戦争後の軍隊の考え方が家庭教育にまで浸透したことが、現代の人々に体罰容認の考えを根強く残す要因となっていると考えられる。

■体罰は次世代に連鎖するのか？

体罰を受けた経験のある親の中には、厳しい体罰のおかげで現在の自分があると思う人がいる。しかしそれは正しいのだろうか？

■体罰のエスカレートによる死亡事例

体罰をエスカレートさせてしまい、子どもが死亡してしまった事例を再現映像で描く。そして、このような事例がなぜ起きたのか、どうすれば救うことができたかなどを考える。

■スウェーデンの事例から改善の糸口は？

体罰を法律で最初に禁止したのが、スウェーデンである。どのような経緯があったのか、在日スウェーデン大使に詳しく解説してもらう。そして、体罰を無くしていくために日本ではどうあるべきかを考えていく。

■ライブラリー価格 本体 ¥65,000 (税込 ¥71,500)

児童福祉従事者・関係者向け
約24分

子どもの虐待死をゼロに!! ～4つの事例を検証する～

■はじめに

過去の児童虐待死事件には、ほとんどの場合、事前に何らかの兆候があった。その兆候に気づき適切な支援や保護を行うことができれば、最悪の事態を防げたと考えられる。その対策について、実際に起きた4つの事件をもとに具体的な再現ドラマで見ていき、考えてみよう。

■多胎児の母親の事例

女の子と男の子の双子を授かった百合絵さん(33歳)は、自宅を訪れた保健師に育児の苦悩を語り始め…。

■DV(ドメスティック・バイオレンス)と児童虐待

美樹さん(33歳)は、子どもが2歳のときに激しいDVが原因で一度離婚。その後、過去のDVを深く反省しているというので夫と復縁したが、下の子が生まれると…。

■乳幼児を置いての外出・就労

3歳の娘のいる一人親の美沙さん(23歳)は、子どもが寝た後の夜間

に働いていた。これまで娘を一人置いても問題なかったため、彼のいる四国に一人で外泊をしたのだが…。

■無理心中も児童虐待のひとつ

心中未遂で母親が生き残り、中学2年の女子が死亡した事件のポイントを振り返って考えてみよう。

■虐待死を減らすために必要なこと

教育や福祉などに携わる実践者が、一つ一つ異なる事例の内容を知ること、背景を正しく理解し、それぞれの事例に沿った対応を確実に進めることが重要である。

■ライブラリー価格 本体 ¥65,000 (税込 ¥71,500)

監修 日本社会事業大学専門職大学院 教授 宮島 清

企画・制作統括 高木 裕己 脚本・演出 細見 吉夫

制作・著作/株式会社 映学社

■DVD [カラー] ■2021年・映学社作品

 株式会社 映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目7番8号らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729 (代表) FAX: 03-3359-4024
<http://www.eigakusya.co.jp/>

●お問い合わせ、お買い上げは……